

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

客観式10個(選択式8個, 記述式2個), 論述式19題(1行×3, 2行×12, 3行×4, 計39行)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

客観式の解答数は10個減少して10個となったが, 論述問題の数は昨年度の17題から2題増加し, 行数が6行増加したため, 分量はやや増加した。内容的には, 書きにくい論述問題も含まれるが, 頻出のテーマが多く, 全体の難易度は昨年度と大きな変化はない。

出題の特徴や昨年との変更点

人間活動が自然に及ぼすさまざまな影響, 経済のグローバル化にともなう問題, 余暇活動などの第3次産業, 日本の人口動態や大都市圏の現状や生じている問題など, これまでの東大本試で問われた内容が切り口を変えて出題されている設問もあり, 過去問の学習が必要である。さまざまな地図と地理情報を扱った主題図が近年多用される傾向にあるが, 本年度は北半球における地上気温の変化を示した図が出題された。

その他トピックス

昨年は日本に関する問題の出題は少なかったが, 日本に関する問題が増え, 一昨年のような問題構成となった。第2問設問Bの都道府県別の外国人宿泊者については, 2024直前講習第1講で扱った。第3問設問Bのパンデミックに際してのテレワークについては, 2024夏期講習第5講で扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	選択 記述式 論述	自然環境への 人間活動の影響	高緯度地域の気候や環境への温暖化の影響が問われた設問Aは, 書きにくい小問もあり, 差が付いたと思われる。一方, 河川開発に関する設問Bは, 東大ではしばしば扱われているテーマであり, 過去問で学習していた受験生は取り組みやすかっただろう。	標準
第2問	選択 論述	経済・余暇活動	設問Aは, 使いにくい指定語句が含まれる(3)(4)で差が付いたと思われる。(4)は, EUが中古の衣類の輸出規制をしている理由が難しい。設問B(3)は, 具体的な都市がイメージできないと難しく, 解答作成に迷った受験生も多かっただろう。オーバーツーリズムに関する(4)は, 高得点を目指したい。	標準
第3問	記述式 論述	人口の分布と移動	首都圏の都市化に関する設問Aは, 頻出テーマであるが, 解答をまとめる文章力が求められる。パンデミックにともなう人口移動に関する設問Bは, 扱われている内容に戸惑った受験生もいたかもしれないが, 解答作成は容易で, ある程度の部分点は取れただろう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 客観式問題での得点が合否にかかわるため, 教科書や共通テスト(センター試験)の過去問などで基本的知識を習得しておきたい。
2. 指定語句を使ったり, 資料から判読できることをもとにコンパクトにまとめることが求められているので, 60字程度の短い論述演習を繰り返しておこう。総字数も多く, 限られた時間で論述する力を身につけておきたい。
3. 統計を解釈する問題が頻出しており, 統計のもつ意味をきちんと理解した学習が求められる。
4. 日本の変化に関する問題が頻出であり, 「高度経済成長期」, 「石油危機」, 「円高」, 「バブル崩壊」, 「都心回帰現象」, 「知識経済化・情報社会化」など, 時代を理解するキーワードをもとにそれぞれの時期の特徴を理解しておきたい。
5. 日本に関しては, 具体的な地域についての知識よりは, 大都市圏と地方圏, 大都市圏内の都心と郊外, 地方圏における中心都市など, 機能からみた地域の特徴を把握しておきたい。
6. 地形については, 地形図だけでなく, 標高分布図や地形区分図などの図が出題されることも予想される。典型的な地形の地形図から具体的な地形がイメージできるようにするとともに, 新旧地形図の比較も練習しておこう。